

4. 聴覚障害編

(3) 難聴について

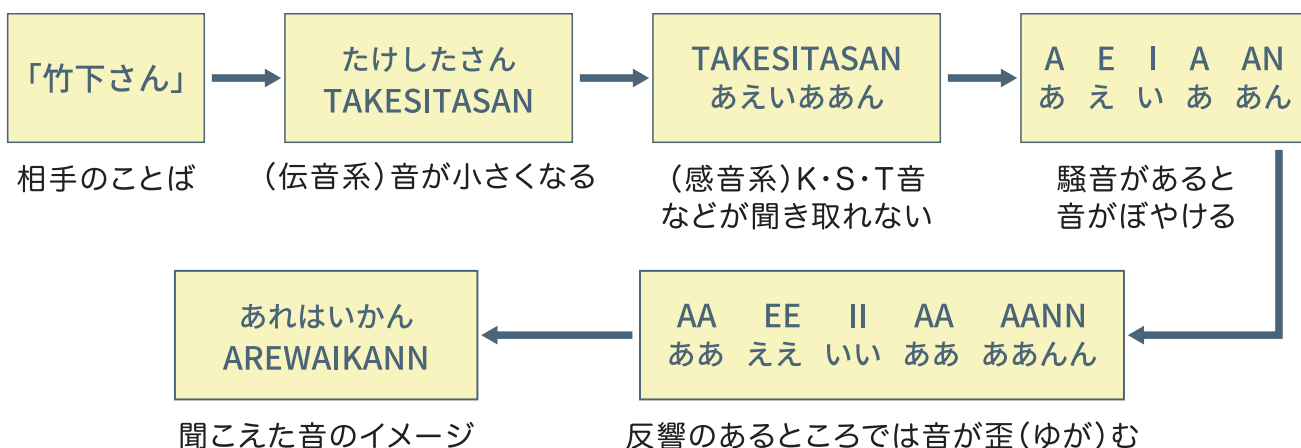
難聴はこう聞こえる？(伝音性難聴の疑似体験)

※耳栓をすると「軽度難聴」の状態を体験できます。

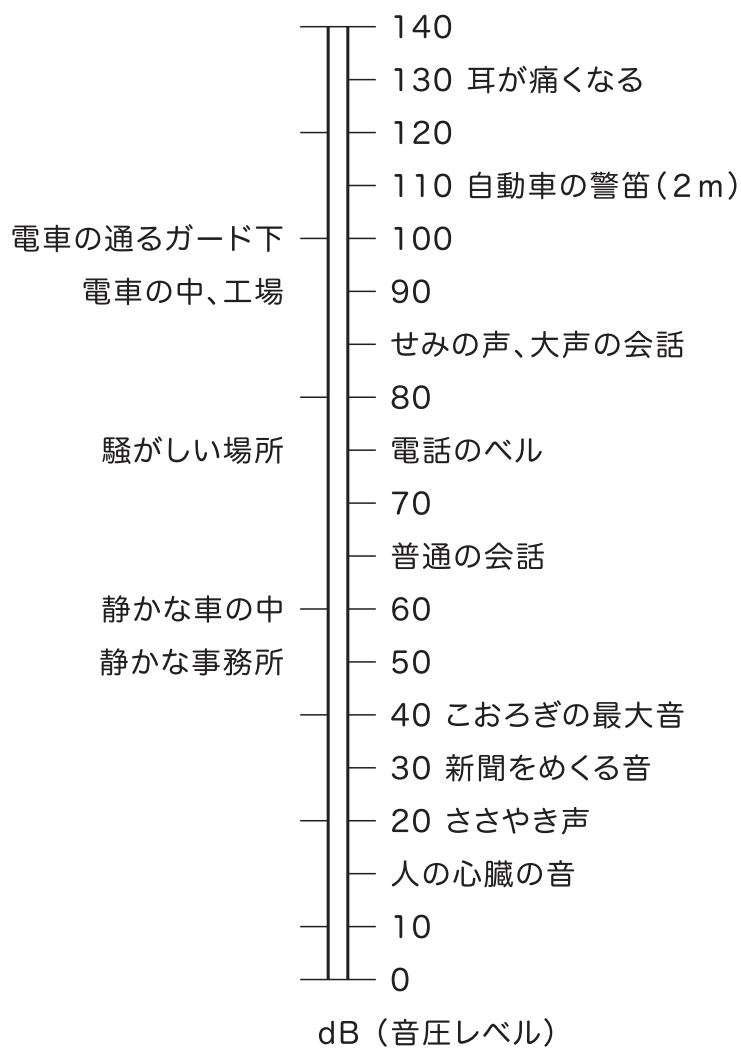
「えっ？」という高齢者の聞き返しが多くなってきたら、それは聞こえが悪くなってきたという合図です。耳も年をとるにつれその機能が衰えていきます。人の話が聞こえにくい、聞こえていても何を言っているのかよくわからない。これが“老人性難聴です”。加齢にともなうこの難聴は、単に聴力が低下するだけでなく、言葉の聞き取りが悪くなる(言語明瞭度の低下)、大きい音が響く(補充現象)が特徴です。また、コミュニケーションの障害を生じさせ、性格・行動の変化をもたらします。「何回も聞き返す」「話の内容がわからないまま相づちを打つ」「引っ込み思案になりがち」などの状態にもなります。

老人性難聴は治療によって改善することはありません。周囲の人および自分自身がこの難聴にともなって生じる性格の変化などをよく理解することが重要です。ゆっくりとわかりやすい言葉で口の動きを見せながら話すことが必要で、聞き取れない時には簡単な言葉に言い換え、大きな声で怒鳴ったりせず、近づいて話しかけましょう。

● 難聴の聞こえの模式図



● 音と聞こえ



● 難聴の程度

程 度	聴 力 レベル	聞 こ え の 目 安
正 常	25dBHL以下	ほとんど不自由はない。
軽 度 難 聴	26dBHL～40dBHL	聞き取りが少し困難になり、遠くの声などが聞き難くなる。
中 度 難 聴	41dBHL～55dBHL	普通の会話の聞き取りが困難になる。
	56dBHL～70dBHL	普通の会話が聞き取れない。大きな声なら聞き取れる。
高 度 難 聴	71dBHL～90dBHL	耳元の大声なら何とか聞き取れる。
重 度 難 聴	91dBHL以上	ほとんどわからない。